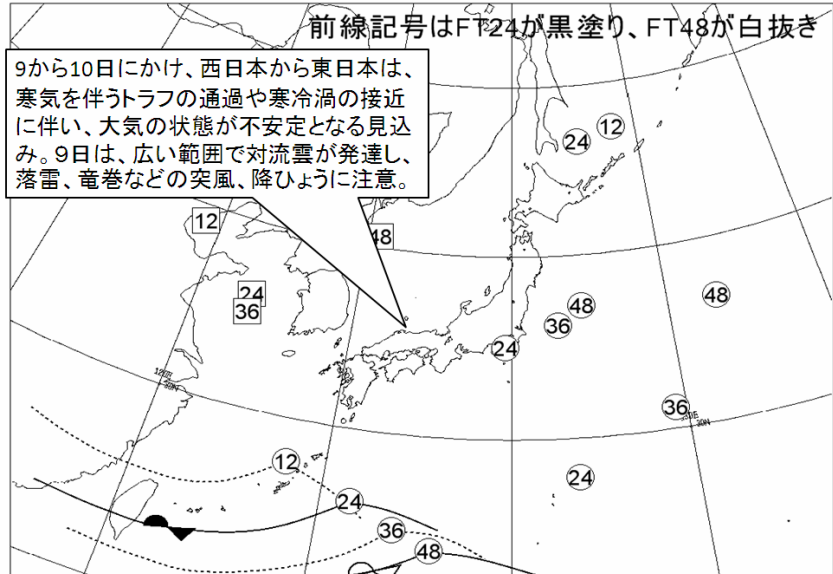


1. 実況上の着目点

- ①寒気渦が東北地方を東進中。この渦の南側にあたる東北地方南部で局地的に対流雲が発達。落雷を検知。
- ②朝鮮半島～山陰沖へ東西にのびる降水域があり、西から寒気を伴うトラフ(500hPa5700m 付近)が接近中。対流雲の発達に注意。ゆっくり南下傾向で、西日本の日本海側を指向。
- ③東シナ海には前線を伴った低気圧が東南東進中。対応する雲域はまとまりなく発達センスは小さい。
- ④沿海州の寒冷渦はほぼ停滞、8日21時の高層観測では500hPa 面-24度を観測。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ①1項②のトラフが9日昼頃にかけて西日本を通過。また別のトラフ(500hPa5640m 付近)が9日夜～10日朝にかけて近畿～東日本付近を通過する。これに伴い西日本～北日本では500hPa で-18度以下の寒気が入り、9日は西日本から東日本の広い範囲で落雷や降ひょう、短時間の激しい雨(1時間雨量30～40ミリ)や竜巻などの激しい突風に注意。
- ②1項④の寒冷渦は次第に南下し、10日の日中に東日本を通過する見込み。東日本を中心に、日射の影響もあって、10日も大気の状態が不安定な状態となり、落雷・突風・降ひょうに注意。
- ③1項③の低気圧は前回のモデル初期値に比べ移動が早まっており、南西諸島の大雨のポテンシャルは低くなった。ただし、前線の南側では暖湿気が流入しているため、低気圧・前線近傍で下層収束が強まると、9日日中の間は対流活動が活発になるおそれがある。
- ④10日は関東の東海上で低気圧が発達しながら北東へ進む。西日本から東北地方にかけて、風が強まる。強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

不安定に関しては、GSM や突風関連指数なども参考に検討。前線帯周辺の降水に関しては、MSM も参考に検討。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

- ①大雨ポテンシャル(06時からの24時間:地点最大)特に多いところはない。2項短時間強雨に注意。
- ②波(明日まで):四国～東北地方の太平洋側で3m。③潮位:大潮期間につき天文潮位の高い所は注意。

5. 全般気象情報発表の有無

05時頃までに、「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を発表します。